

「故郷の春」の舞台でもある。ここ昌原に、○三年一月に開館した。「故郷の春図書館」内の一角に位置する一八二㎡ほどの狭い空間だが、彼の生涯や文学世界を垣間見ることができるとても大切な遺品や本、雑誌などが展示されている。壁のひと隅を見ると、親交が深かったという李周洪が絵を、李元寿が字を書いたという「故郷の春」の額縁がかかっていた。遺品といっても、亡くなるまで非常に質素な生活であったという彼が残した物は、手帳やメモ書き、タバコのパイプくらいで、他には何も残されていない。そこからは、生前、持たざる者には何でも分け与えたという彼の生き様の片りんを窺い知ることができるようだ。

李元寿は「故郷の春」以外にも数多くの童謡を残し、子どもたちに夢や勇氣、希望を与え、命の大切さをも目覚めさせる多くの童話・少年小説を残し、韓国児童文学史上に大きな役割を果たした。

今回、李元寿文学館に行っではじめて分かったのだが、彼は、わたしの故郷である咸安とのつながりも深く、より親しみを感じたひとときでもあった。日本に帰ったら韓国語教室でさっそく「故郷の

春」をみながら歌おうと思いつきながら文学館を後にした。



- 開館日……火曜日～金曜日
(午前 9 時～午後 6 時)
土曜日・日曜日(午前 9 時～午後 5 時)
- 休館日……月曜日・祝日
- 問い合わせ (055) 294-7284

■国立オリニ青少年図書館

江南駅^{カンナム}⑧番出口を出てしばらく歩くと「科学技術会館」という看板が見える。右に曲がると少し坂道だ。この図書館には日本でもとみに学んだ日本人の友人が同行してくれた。彼女は韓国の子どもたちに日本の昔話を読み聞かせたいと話し、

数ヶ月前からソウルに来ていた。久しぶりの再会で坂道にもかかわらず息が切れるのも忘れて楽しくおしゃべりしながら歩いていると、子どもが喜びそうな造形物が目の前に現れた。初めて見るような可愛い図書館の正門だ。

国立オリニ青少年図書館ができたのは○六年六月で、諸外国に比べると非常に遅い。一一年間日本で過ごすなかで日本の「子ども図書館」や「子どもコーナー」をととても羨ましく感じていたわたしは本当に嬉しかった。今回はゆっくりじっくり図書館探検をしてみよう。



- 開館日……月曜日～日曜日 (午前 9 時～午後 6 時)
- 休館日……第二・四月曜日・祝日
- 夜間図書館 月曜日～金曜日 (午後 6 時～夜 9 時)
(ただし、図書予約後外国児童資料室でのみ利用できる)
- 問い合わせ (02) 3413-4800